

# 神苑の決意

平和と独立を求める  
民衆の「決意」を伝える  
神道ジャーナリズム誌

【本号の内容】  
〔主張〕総裁選に期待なし 総選挙で政権交代へ（木川智）  
：1 / 〔連載〕児玉誉士夫を君知るや（木川智）：4 / 那覇市議選のすすめ（特別編）那覇市議選を振り返る（仲村之菊）：9 / 花瑛塾令和三年七月・八月活動報告：10 / 〔連載〕記録沖縄戦⑩（沖縄戦史研究会「棒兵隊」）：17 / 〔連載〕葦津珍彦と神道ジャーナリズム17（鎌倉佐助）：22 / 編集後記：24

1部 1000円

次期衆院選で維新は躍進、自民公明+維新の連立に警戒せよ

# 総裁選に期待なし 総選挙で政権交代へ

神苑の決意 木川智

〔主張〕 毎日新聞と社会調査研究センターが先月末に実施した世論調査で、菅内閣支持率が二十六％、不支持が六十六％となった。先行する各種の世論調査においても、菅内閣支持率は「危険水域」といわれる三十％を割り込んでおり、菅首相は苦しい立場に追い込まれている。各方面が実施している次期衆院選の選挙予測でも自民党の議席が大幅に減る結果が現れており、選挙に強くない同党中堅、若手議員を中心に動揺がひろがっているようだ。

先月下旬の横浜市長選挙では、菅内閣の現職閣僚から鞍替え立候補した小此木八郎氏が、立憲民主党が推薦し共産党や社民党などが支援した山中竹春氏に約二十八万票もの大差をつけられ落選している。横浜は小此木氏の祖父の代からの地盤であり、菅首相の地盤でもある。そればかりか菅首相以下政権中枢の支援を受けながら、さらには横浜へのIR誘致見直しという切り札の選挙公約を掲げながらの小此木氏の落選は、自民党内の動

揺を加速させている。もちろん横浜市長選挙は、あくまでも自治体選挙であり、現職の林文字市長に肉迫した田中康夫氏が批判したように、国政の「代理戦争」にしてはならない。しかし好むと好まざるとにかかわらず代理戦争の様相を呈した選挙での政権側の敗北は、政治的に大きな意味を持つ。そうしたなか、いよいよ今月二十九日に自民党総裁選が実施される。菅首相の再選が見込まれるものの、岸田文雄氏が中堅、若手議員の動